

# リビングリテラシー向上プログラム推進事業

H30:5,194千円

## 【現状と課題】

- ◆低い耐震化率  
耐震診断や耐震改修工事の敬遠等、住まいと向き合う基礎知識が不足
- ◆停滞する自治会・町会活動  
自治会活動への無関心、居住マナー欠落等、コミュニティ、共同で生活を営む意識が不足
- ◆伸び悩む中古住宅流通  
新築住宅、持ち家への偏向等、ライフスタイルに応じた住宅や住まい方を選択する能力が不足
- ◆求められる住教育の充実  
技術家庭科における「衣食住」の学習項目のうち、住生活に関する学習が不十分

県民の「リビングリテラシー(住宅や住まい方に関する基礎的な知識や判断力)」が未成熟

## 【解決の方向性】

- ▶県民一人ひとりが将来にわたりより良い住環境で暮らしていくこととする意識改革・環境形成が必要
- ▶より豊かな住生活を実現しようという県民の意識醸成
- ▶住生活の情報提供等による県民のリビングリテラシー向上
- ▶住生活全体を学習環境として子どもが考える力や生きる力を育む住教育の実施

住宅施策として住教育を支援

## 【事業内容】～巣立つ前に身に着ける実践版の住教育～ (実施期間:平成29～30年度)

防災等の基礎的な知識を身に着ける教育が必要な小・中学生や、独立後の住生活で自らの判断が必要となる高校生を対象としてリビングリテラシーを向上させる取組みを実施し、次世代の暮らしやまちづくりを担う子どもたちの判断力や生きる力を育成。併せて、県民がリビングリテラシーを維持するため、住情報提供等の取組みを実施。



### 1. 樹幹形成

巣や止まり木を支える幹となり、リビングリテラシーを向上させるための体制を整備

- ①教育庁等関係部局との学習内容協議(H29)
- ②大学、高専及び研究機関等による住教育検討委員会の設置(H29)
- ③シンポジウム開催による住教育指針等の周知

### 2. 巣立ちプログラム

巣立ちに必要なリビングリテラシーを向上

- ①住生活に関する平易な内容の小・中学校家庭科の住教育副読本・教材の作成(H29～)
- ②技術・家庭科や総合的学習における出前授業(建築士等住生活関連分野の専門講師による学習機会の提供)(H29試行)

### 3. 止まり木プログラム

巣立ち後もリビングリテラシーを維持

- ①青森県の住生活に必要な基礎知識を網羅した県民向けリーフレット「(仮称)リビングリテラシー」の作成及び普及・啓発
- ②家族みんなで住生活の問題を解決し住環境の向上を考える参加型ワークショップ「(仮称)親子で学ぶ住まいの教室」等の開催

## 【事業効果】

### ☆青森県の未来を創る人財の育成

- ◎住生活の身近な課題を解決することで、思考力、洞察力を育み、地元への愛着を増進

### ☆豊かな住生活の実現

- ◎持家や新築に偏らずライフスタイルに応じた住生活を実現する意識の醸成
- ◎まちづくりの当事者意識形成、コミュニティ活動への参加拡大

### ☆安全安心な住環境の形成

- ◎防災意識向上による耐震改修等防災対策の促進
- ◎健康、省エネルギー住宅等の関心拡大
- ◎既存住宅需要の喚起に伴う空き家増加の抑制

### ☆中古住宅市場の活性化

- ◎住み替え需要の拡大に伴う中古住宅市場の活性化
- ◎住生活社会における賢い消費者の育成

